

インターバンクの声（2014年10月28日）

水曜日の米連邦公開市場委員会（FOMC）を前にして、市場参加者の間でも大きなポジションを積み上げているとの声は余り聞かない。そうしたことも多少影響しているのだろうが、昨晚の海外市場でも相場のレベルが変わるまでの大きな動きとはならなかった。それでもユーロを中心にして、ドイツや米国のネガティブな経済指標結果に対して素直な反応を見せて売られる場面もあった。なかでも米国の9月中古住宅販売成約指数が前月に続いて予想を下回ったことでドルの上値が重くなったのが目立った。先週末の新築住宅販売件数でも前月の極端に良かった数字が大幅に下方修正されていたので、少し米国の住宅市場の様子が気掛りだが、在庫水準も適正レベルにあるようなので、まだそれほど神経質になることはないだろう。やはり本当に心配されるのが今後のユーロ相場の展開。1.25ドル割れ寸前で下げ止まった格好になっているが、昨日もユーロ圏にとっては頼みの綱である独のIFO業況指数が弱く、欧州中央銀行（ECB）のストレステストから報じられていない脆弱性などが露見すれば、まだ下値は深くなりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。